

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(7)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆

されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。また、

UCI(いわゆる「郭グループ」)は、日本で集会を行って『統一教会の分裂』

(日本語訳)という書籍を広めています。その書には誤訳やみ言改竄が散見

し、お父様とお母様が分裂しているかのように論じています。

彼らの主張は、真のお父様が真のお母様と共に立ててこられた勝利圏を否

定するものであり、真のお母様を中心とする統一教会の一体化を損ねるもの

です。前回に引き続き、UCI側を支持する人々の言説の誤りを指摘してい

ます。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布

文サイト (http://trueparents.jp/) の掲載文や映像をごらんください。

注、真の父母様のみ言や『原理講論』は「青い字」で、UCI側の主張は

「茶色の字」で区別しています。

UCI(いわゆる「郭グループ」側を支持する人々は、金鍾

鍾(キム)著『統一教会の分裂』(日本語訳)を、二〇一六年の秋頃

から日本で集会を行って広めています。すでに述べた反論文で、

この書籍の内容が、み言の改竄や誤訳による意図的な虚偽の

ストーリーであることを明らかにしました。

虚偽を暴く(2)(3)では、金鍾奭氏が言う「統一教会

の核心アイデンティティ」の誤り、および統一教会の伝統に関

する顕進様のアイデンティティのうちの「復帰摂理の中心が創

始者ではないとする誤り」創始者を神様の実体として崇拜し

ていると批判する誤り、真の家庭のアイデンティティの誤り

の血統を受けた直系のひとり子として来られ、墮落したすべて

の人類を彼に接がせて一体となることにより、彼らが原罪を脱

について指摘しました。

今回は、統一教会の伝統に関する顕進様のアイデンティティ

のうち「祝福家庭」「養子養女」とする誤り、および「創始者の

使命は特定の宗教の創設ではないとする欺瞞」について明らか

にします。

六、UCI側が広める金鍾奭著『統一教会の分裂』の虚偽

を暴く(4)

金鍾奭氏が主張する「アイデンティティ」の誤り・その3

「問題点その④「祝福家庭を養子養女」とする誤り」

まず、問題となる金鍾奭著『統一教会の分裂』(日本語訳)

の部分を用います。

「特異な事実は、文顯進の血統認識にある。……文顯進は自

分を神様の血統が復帰された人類最初の真の家庭の一員として

自分の血統を絶対的次元で認識しており、祝福家庭を真の家庭

救いのレベルではありません。真のお父様のみ言を引用します。

「霊界にいる人々も、真の家庭が必要です。その真の家庭が

なければ、神様の位置に連結されず、天国に入っていくことが

できません。地上天国で暮らした夫婦も、あとから天国に入っ

ていくようになります。……その家庭は、誰によるものでしょ

うか。真の父母の家庭です。今までのすべての家庭は、偽りの血

統で連結されてきました。本然の家庭ではなかったのです。祝

福家庭が現れることによって、神様の血統が連結された真の家

庭が生まれるようになったのです」(八大教材・教本『天聖経』

2171ページ)

「天一国主人、私たちの家庭は真の愛を中心として、本然の

血統と連結された為に生きる生活を通して、心情文化世界を完

成することをお誓い致します」

に「接ぎ木されて神様の血統」

に復帰された拡大された真の家庭であり、養子養女の家庭であ

ると認識する」(65ページ。注：太字は教理研究院による)

上述の内容によれば、「真の家庭を真の父母様の直系の家庭」と定義し、祝福家庭を「拡大さ

れた真の家庭であり、養子養女の家庭」と述べており、神の血

統が「神様↓真の父母↓真の家庭↓拡大された真の家庭」とし

て連結されると主張しています。しかし、この主張は「原理」

と食い違った内容となっており、『原理講論』を引用します。

「いくら信仰の篤いキリスト教徒でも肉的に継承されてき

た原罪を清算することができないままなので、サタンの血統を離脱できなかつたという点

においては、旧約時代の信徒たちと何ら異なるところがありません。このように、キリスト

……家庭盟誓の七節が重要です。……『私たちの家庭は真の愛を

中心として、本然の血統と』ではないアダムの、墮落と全く因

縁のない本然の血統を受け継いで、『本然の血統と連結した心

情文化世界を完成することを誓い致します』です」(同2391ページ)

金鍾奭氏は、顕進様の認識をもとに、真の父母様の祝福に

よって「血統転換」された祝福家庭に対して、それを「養子養

女の家庭である」と主張しています。養子養女とは、血統が

つながった直系ではなく、血統が異なっていることを意味します。

確かに、祝福家庭は、真の父母様の直系家庭と、生物学的な

意味での血筋のつながりがないために、「養子養女の家庭」と

言われると、そのように思ってしまう人がいるかもしれません。

しかし、『原理講論』が論じて

「神の復帰摂理の目的は……神との血統関係が断たれてし

まった墮落人間を復帰して、神の直系の血統の子を立よう

とするところにあるのである。……イエスは、原罪のない、神

の血統を受けた直系の子女として復帰するために、再臨されな

くはならない」というのです。再臨主によってもたらされる救

いるように、真の父母様から祝福を受けて、血統転換された祝福家庭は、すでに神の血統と連結した立場なのです。

したがって、真の父母様の直系の子女様と祝福家庭とは、同じ真の父母から生まれたアベルとカインであり、同じ父母を中心とした兄弟姉妹なのです。金鍾奭氏が述べる顯進様のアイデンティティの「祝福家庭を真の家庭に『接ぎ木されて神様の血統』に復帰された拡大された真の家庭であり、養子養女の家庭であると認識する」という主張は、原理的にも、真のお父様のみ言から見ても誤っています。

祝福家庭は、「拡大された真の家庭」ではなく、「皇族」としての、真の父母様を中心とする真の家庭に血統的に連なっている一員なのです。

真のお父様は、「真の父母の血統にならなければなりません。血統が連結されたものは、父子関係です。真の父母の真の子女

にならなければなりません。それが祝福家庭です。アダム家庭で墮落してこのようになったので、反対にひっくり返したのが祝福家庭です」(天一国経典『天聖経』929ページ)と語っておられ、祝福によって、血統転換された祝福家庭に対して、明確に「真の父母の真の子女にならなければなりません。それが祝福家庭です」と語っておられます。祝福家庭は、金鍾奭氏が顯進様の認識として言うような、真の父母様の「養子養女」なのではありません。

『原理講論』には、「家庭は父母がいて初めて成り立つのである。また、そこにおいてのみ、真の兄弟愛は生まれてくるのである。したがって、今や人類の親であるイエスだけが再臨すれば、全人類は一つの庭園において、一つの大家族をつくり、一家団欒して生活し得るようになっていくのである」(166ページ)と論じられています。

くって、『ああ、神様！ 統一教会をつくったので、私は誇らしく思います』と、そのようなは思いません。統一教会という看板を掲げてはいますが、この看板をいつになったら取り外すことができるか、という考えをもっています」(同、29〜30ページ)と語っておられます。

『真の父母と真の家庭の実体的な基盤を通じて、人類を天の血統に転換させることによって人類救援を実現すること』と規定する」(64ページ)

確かに、真のお父様は、「一九五四年に、私は韓国のソウルにおいて正式に統一教会を創設しました。一九五四年の五月一日に……北鶴洞の小さな家で看板を掲げて出発したのです。私は教派をつくろうとしませんでした。名前は『世界基督教統一神霊協会』なのですが、それをつくろうとしたわけではありません。教派を超越した超教派的な面において運動をしようとしたのですが、受け入れなかったのです。それで仕方なく、統一教会をつくったのです」(『真の御父母様の生涯路程』③ 26ページ)、「さらに、「私は教会という言葉が好きではありません。仕方がなく教会という看板を付けたのです。私は統一教会をつ

もし、祝福家庭を真の父母様と血統がつながっていない養子養女と見るならば、それはキリスト教における、靈的救いの次元の救いとどまっている立場であり、真の兄弟愛の関係を築くことはできません。

『統一教会の分裂』は、真の父母様の思想と異なることを平然と述べており、誤った主張をしているのは明白です。そして、この「養子養女」の主張のもとに顯進様の認識であるということであり、顯進様の認識自体が真の父母様の思想と異なっているのは明らかです。

ちなみに、郭錠煥氏は「私たち養子・養女である祝福家庭は、直系の真のご子女様から認められなければ生きる道がないのです」(『祝福家庭』二〇〇〇年冬季号、一一〇ページ)と語っています。このように真の子女を中心と考えて「生きる道がない」と述べます。しかし、真のお父様は、「先生が接ぎ木

されたものではありません。神様のみ旨の完成のために、神様のみ旨成就のためにこの団体が始まり、出発されたことは言うまでもないのです」(マルスム選集113-92)

「皆様、侍義時代とは、神様に侍って暮らす時代です。……後天時代には、神様御自身が真の父母の姿で万人の前に顕現します。したがって、真の父母に侍る統一教会の地位は、世の中のどのような力や勢力とも比較できない天の権勢として現れるようになるのです。生きていらっしゃる神様を皆様が直接目で確認し、感覚で体恤できる圏内において、侍る生活を送る皆様を、誰が妨げることができないのでしょうか」(『平和神経』295ページ)

金鍾奭氏は、顯進様が、真のお父様の使命を「特定の宗教や特定の教派を創設することでは

してやるのだから、先生を通して完成基準に上がる道ができるのです。……真の父母と一体となっていくば、無難にその峠は通過します。真の父母を離れた場合には、行く道がありません」(『訪韓修練会御言葉』74〜75ページ)と語っておられ、どこまでも「真の父母」が中心なのであり、父母によって生かされるということを知らなければなりません。祝福家庭は血統転換され、真の父母と血統がなくなっているのです。郭氏の言説は、真のお父様のみ言と完全に食い違っています。

【問題点その⑤】創始者の使命は特定の宗教の創設ではないとする欺瞞

まず、問題となる『統一教会の分裂』を引用します。

「第四に文顯進は、自分の父である創始者の使命を特定の宗教や特定の教派の創設ではなく、

ない」としていると、ことさらにそれを強調します。しかしながら、お父様は統一教会創立二十七周年の記念日に語られたみ言で、統一教会の創立について、上述のように、「神様のみ旨の完成のため」、「神様のみ旨成就のため」であるとはっきりと語っておられます。お父様の使命とは、神様のみ旨の完成であり、そのために統一教会は設立されたのです。前述したように、『平和神経』でも、お父様は、「真の父母に侍る統一教会の地位は、世の中のどのような力や勢力とも比較できない天の権勢として現れる」と語っておられるのです。

さらに、問題となる『統一教会の分裂』(日本語訳)の部分も引用します。

「文顯進は、『神様↓真の父母↓真の家庭↓拡大された真の家庭(祝福家庭)』と繋がる血統復帰の価値を固守しており、超

宗教的な奉仕と理想家庭実現の
為の平和理想世界実現運動を
『One Family Under God』の
名前で展開している。ところが、
文顯進も真の家庭（創始者の直
系家庭）の血統が全人類に伝授
される（何らかの）儀礼として
の手段が必要だったものと見ら
れる。それ故か、二〇一五年六
月に米国シアトルで祝福結婚式
を主管したという。推測すると
彼は、創始者が今まで示してき
た血統復帰の為の伝統や儀礼を、
普遍的で世界化された儀礼にデ
ザインし直して引き継いでいく
ように見られる」（66ページ）

「文顯進は、最近GPFのほ
かに、FPA (Family Peace
Association・家庭平和協会)
を組織し、その使命を：『…神
様を中心とした家庭の実現を図
り、その家庭の世界的連合活動
を通じて世界平和創建に注力す
る国際的な組織である』と決定
したと言う」（314ページ）

「FPAは、創始者が世界平
和統一家庭連合を通して実現し
ようとしていたものを目標とし
ている」（同）

UCI側を支持する人々は、
統一教会や家庭連合を設立する
ことが目的ではないと、ことさ
らに強調することで、真の父
母と真の家庭（直系家庭）の実
体的基盤を通じて天の血統に転
換させるためにFPA（家庭平
和協会）という別の団体を設立
してもいい」という口実を得た
いがため、このように強調して
いるものと言えるでしょう。つ
まり、彼らが主張する「真の家
庭のアイデンティティ」という
誤った言説によって、真の子女
様家庭が、真の父母の承認を得
ないで「新たな団体」を創設し、
子女様による「祝福」によって
血統復帰らしきことを行おうと
する行為を正当化するために、
このように語っているものと考
えざるをえません。

マルスム選集323巻に、真
のお父様が文顯進様に対して語
られた「警告」のみ言がありま
す。以下、引用します。文中の
黒字は報告者です。

「（私は今日、準備するもの
があります、お父様）準備す
るものを私は知らない。（指
導者会議と文顯進様が今回の巡
回に対して整理しなければな
りません）整理して何をす
るの？（とても大きな事件です
ので、我々は歴史的な記録とし
て…）」歴史的な記録が何な
の？ 統一教会の歴史の中で青
年が統一教会の頂上ではありま
せん。（知っています。ですが
我々なりに…）我々なりに？
自分なりにしては脇道に行つて
しまふ。（それはとても老婆心
です）何、老婆心？ 誰が老
婆心か？ 誰の前でそんな話を
しているのだ？ 自分について
言っているのか、先生について
言っているのか？ 言葉をいい

かげんに言っている。誰が老婆
心を持っている、誰が？（文
顯進様は、お父様に対する栄光と
お父様が…）」その栄光が、
父の栄光ではなく、神様の栄光
となり、統一教会の栄光になら
なければならぬよ。伝統をど
こに立てるの？ 父の伝統に
従って、母の伝統に従って、三
番目に息子である。それを知っ
ているの？ 母は伝統を立てる
過程です。終わっていません。
母の伝統を立てる前に息子の伝
統を立てることができないこと
を知っているの？ それを知っ
ているの？（はい、知ってい
ます）それなのに、そんなこ
とを言うの？ 收拾するとすれ
ば、お母様がなさることはなぜ
收拾しないの？」（マルスム選
集323-83、二〇〇〇年五月
三十一日）

「文顯進は私が前に立たせてい
るのです。立たせることで、先
生より前面に押し立てて報告す

るなどいうのです。分かります
か。何のことか？ 統一教会か
ら党派をつくる輩（分派）にな
ります、…：党派をつくる輩
（分派）です、分かりますか？
自分たち同士で策を打ち出して、
そこに先生を引きずり込んでこ
の世をどのように作ろうとする
の？ 恐ろしく、とんでもない
ことです。ですから、転換時代
に精神を引き締めなければなら
ません。自分の立ち位置を知ら
なければなりません」（マルス
ム選集323-91-92、二〇〇
〇年五月三十一日）

二〇〇〇年五月三十一日に語
られた真のお父様のみ言では、
伝統とは、父と母が立てた伝統
に従って、息子が伝統を立てな
ければならないと語られています。
二〇〇〇年当時の時点は、真の
お母様が伝統を立てる過程にお
られ、お父様は、まだその過程
は終わっていないと語っておら
れます。そして、報告者が、「顯

進様のお父様に対する栄光」と
文顯進様がしておられることを賛
美しましたが、それに対してお
父様は、「神様の栄光であり、
統一教会の栄光にならなければ
ならない」と語っておられます。
このことからしても、お父様の
創設された統一教会とは、「真
の父母に侍る統一教会の地位は、
世の中のどのような力や勢力と
も比較できない天の権勢として
現れる」団体であるのです。

また、二〇〇〇年三月三十一
日に世界大学連合理究会の中
に世界会長に文顯進様が就任されま
した。しかし、同年五月三十一
日のみ言で、真のお父様は、文
顯進様をお父様より前面に押し立
てて報告するようになってしま
うと、「統一教会から党派をつ
くる輩（分派）になります」と
語っておられ、今あるUCIの
状況を予見するかのようになり
ておられるのです。
実際に、真のお父様が心配さ
れたとおり、今、「文顯進は、

最近GPFのほかに、FPA
(Family Peace Association・
家庭平和協会)を組織し、「創
始者が世界平和統一家庭連合を
通じて実現しようとしていたも
のを目標としている」という行
動を取っていることを見た
き、かつて真のお父様が予見し
ておられたように、文顯進様を中
心とするUCI側は、統一教会
から別の党派をつくってしまう
輩（分派）となり、誤った行動
を執っていることを知らなけれ
ばなりません。

以上、『統一教会の分裂』の
内容を、真のお父様のみ言と
『原理講論』に基づいて、さま
ざまに検証してみると、金鍾奭
氏の著書は、文顯進様の話や認識、
行動などをもとに数々の非原理
的な主張をしており、それらの
言説は、真の父母様の位相を失
墜させるだけでなく、み言の正
確な理解やみ言の推進に対して、
多大な支障を生じさせる「悪書」
と言わざるをえません。

『統一教会の分裂』が述べて
いる「統一教会の核心アイデン
ティティ」および文顯進様の数々
のアイデンティティが、ことごと
くみ言や『原理講論』の教え
と異なっている事実を見たとき
に、真のお父様が生前、「文顯
進について行つてはならない」
となぜ私たちに語っておられた
のか、その理由を改めて痛感せ
ざるをえません。

私たちは、二〇一一年天曆四
月二十三日（陽曆五月二十五日）
に「真の父母様宣布文」を公表
せざるをえなかった真の父母様
のつらいご心情に思いをはせ、
決してUCI側が主張する「偽
りのアイデンティティ」に惑わ
されないようにしなければなら
ません。そして、UCI側が、
今現在、真の父母様のもとを離
れて独自に行っている活動に
くみすることがあってはなりません。
もうこれ以上、真の父母様
を悲しませることがあってはな
らないのです。